第 86 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

■開催日時

2025 年 10 月 31 日(金)16:00～

■開催場所

東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社

■出席者

品田 英雄 委員長

富澤 一誠 委員

長谷川 演 委員

和合 治久 委員

野崎 良太 委員

■局側出席者

代表取締役社長 貴舩 靖彦

エンターテインメント事業部長 瀬戸 彰人

エンターテインメント事業部副事業部長 亀割 誉

エンターテインメント事業部編成部長 村田 徹

エンターテインメント事業部編成部編成制作課長 小島 万奈

エンターテインメント事業部編成部編成制作課 本多 義明

エンターテインメント事業部編成部編成制作課 五十嵐 英高

株式会社ユーズミュージック副社長 山下 光儀

【番組審議会事務局:森角、大園、北村】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第 61 期第 4 四半期経営成績について

店舗サービス事業の売上・営業利益は、60 期比で伸長した。

(2)「USEN MUSIC Entertainment」の STB 版リリースについて

2025 年 10 月に「USEN MUSIC Entertainment」の STB 版をリリースした。既設モニターの活用が可能となった他、STB 化によりコンテンツ送信の安定性が向上した。

(3)10 月番組改編について

2025 年 10 月 1 日に番組改編を実施した。地域向けコンテンツと季節コンテンツを拡充した他、従来利用率が高く小売、理美容、オフィス等、汎用性がある新番組を放送開始した。

(4)プロ野球応援歌の放送について

あらゆる業種での応援セール用 BGM としてご利用頂くため、2025 年プロ野球クライマックスシリーズ＆日本シリーズに合わせた球団の応援歌を放送する臨時放送対応を実施した。

(5)ハロウィン BGM の放送について

日本でも秋の風物詩として定着した「ハロウィン」を盛り上げる BGM としてご利用頂くため、「ハロウィン・スタンダード（Vo/Inst）」、「ハロウィン・キッズ・パーティ」、「ハロウィン BGM」等、ハロウィン向け BGM を放送した。

(6)追悼番組の放送について

USEN 音楽放送サービス（USEN MUSIC／USEN MUSIC HOME／MPX-1）で 9 月 4 日に逝去された橋幸夫氏に追悼の意を表した特別番組を 9 月 10 日より放送した。

2. 審議課題

「利用シーン」×「番組」

3. 【対象番組】

■C-33 Urban Jazz＆Soul

■Nu-Jazz （Instrumental）

4. 審議

【放送局】

第 62 期は前期に引き続き、「利用シーン」×「番組」を審議テーマとし、今回は「クールでスタイリッシュな空間演出を施す BGM」として「C-33 Urban Jazz＆Soul」、「Nu-Jazz （Instrumental）」の 2 番組を審議頂きたい。まずは、「C-33 Urban Jazz＆Soul」からご意見を伺いたい。

【審議委員】

まず番組名を見た時に、いつもと違う重みのある、何か特別な意図を感じさせる番組だと感じた。実際に番組を聴いた印象としては、これまで聴いた事がないジャンルとしての新しさがあり、非常に新鮮だった。初めは先入観を持たないよう資料を読まずに聴いたため、「C-33 Urban Jazz＆Soul」と「Nu-Jazz （Instrumental）」の違いが分からなかったが、聴き込むうちにその違いを感じるようになった。「C-33 Urban Jazz＆Soul」の第一印象は、新しさがあり格好良く不思議な感覚だったが、聴き込むにつれてテンポの異なる曲や和と洋の要素を含む曲、さらには様々な楽器やエレクトロニカ的な要素を持つ曲が混在していることに気が付き、「これが近未来なのか」という印象を受けた。

利用シーンについては、私は店舗設計やインテリアデザイン等、ブランディングに携わっているため、どの様な店舗ジャンルや内装、メニュー、ブランド、アイテムに合うのかを考えてみた。当初はイメージが湧かなかったが、自身がデザイン

を手がけたレトロな雰囲気の美容室で流したところ非常にマッチしたため、想定よりも幅広い空間に合うのではないかと感じている。また、先日大阪を訪れた際に、ハイブランドの新しいホテルにいくつか泊まったのだが、その中でも過剰なまでにデザインされた空間には合うのではないかと感じた。世界に目を向けると、パリやニューヨーク、ミラノやロンドンにあるような、個人のこだわりが強く反映されたホテルには非常に合うのではないかと、徐々に利用シーンが想像できるようになった。

【放送局】
飲食店ではどの様な空間に合うだろうか？

【審議委員】
番組を聴いていると昼と夜の選曲に明確な違いがあることに気が付いた。特に気になったのが夜の曲についてだ。楽器によるものなのか、音量が一曲の中で低く聴こえたり、ダイナミックに聴こえたりするなどバラつきがあったが、この様な変化は意図的に取り入れているのだろうか？

【放送局】
最近のアーティストはそういう変化をつける傾向もある。また、従来の USEN の BGM は同じテイストの曲で構成されている番組が多かったため、あえてそうではないエッジの効いた番組を制作したいという意図もある。アパレル店ではその様な選曲が好まれると想定して幅広い楽曲を選曲しているが、一曲の中でダイナミックレンジが広い曲を選曲するべきかどうかは今後の検討課題としたい。

【審議委員】
幅広い楽曲を選曲しているという点では、飲食店ではなく、アパレル店の方が合うだろう。

【放送局】
実際の利用状況としては飲食店での利用も目立つ。理美容やアパレルの割合も多いが、飲食店での利用も多いというのは今後の選曲の際の指針になるだろう。

【審議委員】
斬新な曲を選ばれているという印象が強かった。ジャズというと 50 年以上前の私が学生だった時代を思い出すが、その時代のジャズと、「C-33 Urban Jazz＆Soul」のようなジャズとでは大きな違いを感じた。50 年前にお店で流れていたジャズは業種によって異なっていた。例えば、カフェや喫茶店ではピアノトリオやボサノヴァなどのリラックス効果のあるジャズが流れており、心地良い空間演出がされていた一方で、レストランではお洒落なジャズヴォーカルや会話や食事が進むようなサクソフォンを中心としたジャズが流れていた。また、本屋で静かに集中して本を探している時にはインストゥルメンタルのジャズが流れており、利用シーンというものが考えられていた印象がある。私は常々「ファンクショナルミュージック」という、音楽の機能性について考えているが、当時からその考え方があったのだろう。
「C-33 Urban Jazz＆Soul」を分析するにあたっては、ジャズの特性である「リズムの多様性」や「快活さや明るさ」、「スタイルの多様性」、「お洒落さ」という点に着目して聴いた。「リズムの多様性」と「スタイルの多様性」という点は全体的には良かったが、「快活さや明るさ」と「お洒落さ」という点においてはモノトーンなリズムの曲や不思議なテンポの曲、低音が響く

曲等、イメージと異なる曲が含まれていた。全体的には穏やかな曲が多く選ばれており、一部激しい曲が混在していたが、私が学生時代に感じた利用シーンに当てはめると、穏やかな曲はレストランやカフェにマッチしており、激しい曲はフィットネス等のスポーツ施設に合うと感じた。「C-33 Urban Jazz＆Soul」はバラつきのある選曲をしているようだが、もう少し絞って選曲するとさらに良い番組になるだろう。

【審議委員】
コンピレーションチャンネルとして制作されている「C-33 Urban Jazz＆Soul」は、様々なジャンルから選曲されており、比較的に好きな内容だったが、“Urban”、“Jazz”、“Soul”の定義に関しては気になった。DJ 活動をしていると、「その曲はJazzとSoulどちらなのか」と質問されることが多いのだが、現代ではジャンル分けが難しい音楽が非常に多くなっており、答えられない事がある。若い世代が訪れたり、音楽感度の高い店員が働いていたりするようなカフェ等では、サブスクリプションサービスを活用して自身で「C-33 Urban Jazz＆Soul」のような楽曲を集めてプレイリストを作成してしまっている事が多いように感じる。そのような人が、「Urban Jazz＆Soul」という番組名を見て「自分の聴きたい音楽だ」と認識できるのかという事は疑問に感じた。私がこの番組名を見た時はインコグニートなどの 90 年代のアシッドジャズが思い浮かんだ。サンプルの中には若い世代に人気のアーティストも含まれているが、ジャンル分けとしてはジャズしか当てはまらず、楽曲をリリースする際のタグ付けに困っていることが多い。その様な難しいジャンルにあえてチャレンジした番組なので、届くべき人に届いたら非常に喜ばれる番組だと思う。いかに感度の高い若者達に伝わる番組名にするかという事が課題だろう。

【放送局】
番組立ち上げの際にも番組名については非常に悩んだ。例えば“Alternative”等の言葉も候補に挙がったが、一般のお客様への分かりやすさを考慮して最終的に“Jazz”や“Soul”というワードを選んだという経緯がある。幅広い層に伝わるために「Urban Jazz＆Soul」という番組名を採用しているが、音楽感度の高い人にも聴いてもらうために番組名については引き続き検討したい。
番組の内容について、他の委員から「昼と夜の区分けが明確になっている」とご意見を頂戴したが、区分けの仕方については何か感じた事はあるだろうか？

【審議委員】
様々なジャンルが含まれているため区分けは難しいと感じた。厳選されたアーティストだけが音楽をリリースしていた昔と違い、今は個人が自由にリリースできる時代に変化しており、このジャンルの音楽が飽和状態になっている。その中には雰囲気が似ている曲も多くコンピレーションアルバムが作りやすくなっている一方で、個性が無くいつ聴いても代わり映えがしないという側面もある。今回のサンプルでは昼と夜の区分けを感じたが、長時間の選曲を聴いた場合には昼と夜の区別が分かりづらくなるだろうと感じた。

【審議委員】
「クールでスタイリッシュな空間演出」というコンセプトに非常に良く合っていた。従来のジャズやソウルのイメージとは異なる新世代が持つ感覚が盛り込まれた選曲で、その中でも単調になる事なく、毛色の違う曲や旬なアーティストの曲まで選曲されている点も非常に良いと感じた。一方で、ラップで始まる曲はこの選曲の中では違和感を覚えた。
昨今のサブスクリプションサービスは更新頻度が高いが、シーンの変化と共にアップデートすることは非常に重要なポイントになるだろう。利用シーンについては、落ち着いた雰囲気のショップ等にも非常に合い、幅広く聴かれる番組だろうと

感じた。

【審議委員】
私はいつも一曲一曲の点と、それを繋いでいく選曲の線、それが更に利用シーンではどの様に聴こえるかという 3 つの視点で聴いている。
まず感想としては「C-33 Urban Jazz＆Soul」は楽しくない、そして「Nu-Jazz（Instrumental）」は緊張感があると感じた。「C-33 Urban Jazz＆Soul」を楽しくないと感じた要因は、変拍子の楽曲だ。「Nu-Jazz（Instrumental）」は、元々緊張感がある番組なので、変わった楽曲が流れても番組としてブレは無いが、「C-33 Urban Jazz＆Soul」は選曲の幅が広いだけに、変拍子など違和感のある楽曲が目立つと、楽しさが損なわれてしまうと感じた。2 番組とも、楽曲の存在感があるのでいわゆる BGM としてなんとなく聴き流す番組ではないだろう。
2 番組とも、今の音楽シーンの流れから新しくて格好良い楽曲が選曲されているというのは間違いないが、その中で「C-33 Urban Jazz＆Soul」と「Nu-Jazz（Instrumental）」は非常に対照的で、「C-33 Urban Jazz＆Soul」の方がより人間的で、「Nu-Jazz（Instrumental）」の方がより無機的に感じられる。「Nu-Jazz（Instrumental）」の方でサックスの演奏が入ると人間的な印象になり、全体の流れとしては違和感を覚えた。また、「C-33 Urban Jazz＆Soul」はヴォーカルの有無が混在しつつもヴォーカル入りが多いのに対して、「Nu-Jazz（Instrumental）」はヴォーカル無しという点も対照的だ。また、ディレクターの説明を聞いて納得したのは、「C-33 Urban Jazz＆Soul」は非常に男性的で、「Nu-Jazz（Instrumental）」は中性的な印象を抱いたという点だ。
「C-33 Urban Jazz＆Soul」は会話がはずむような空間、そして「Nu-Jazz（Instrumental）」は次第に皆が静かになるような空間で流れるイメージだ。
今回は、他の委員の意見を通じて課題が明確になってきている。課題の一つは、「C-33 Urban Jazz＆Soul」と「Nu-Jazz（Instrumental）」のいずれも、お客様がこの 2 番組にたどり着くのは、非常に困難だろうという点だ。そしてもう一つの課題は、少数であっても熱心に聴いてくれるお客様をいかに掴むかという事だ。これらの課題を解決するためには、「C-33 Urban Jazz＆Soul」がスタイリッシュかどうかという点と、利用シーンに合うか・多くの人に届くかどうかという点の二つの視点が必要ではないだろうか。
「C-33 Urban Jazz＆Soul」と「Nu-Jazz（Instrumental）」は選曲の幅が違うので、それぞれの統一感を広げるのか、狭くするのか、お客様の声を聞いて検討すると良いだろう。

【審議委員】
「Nu-Jazz（Instrumental）」の想定する利用シーンにおけるマッチング度合いについては、アパレル、飲食、美容などのスマートでスタイリッシュな空間演出を求める店舗には違和感なくマッチしていると思う。選曲や演出手法など内容については、どの楽曲も単なる BGM ではなく、クールでスタイリッシュな空間を演出するために効果を発揮していて良い。中にはトラックとしてはかっこいいが、前衛的で少しアクが強い楽曲が流れ、あまり BGM としては適さないように感じた。また、「Nu-Jazz（Instrumental）」という番組名なので、もう少しジャズ寄りのものを入れてみてはどうだろうか。ジャズを元にしたファンク、ヒップホップ、エレクトロニカなどの楽曲が大半を占めているが、中にはアンビエントに近い楽曲も流れたので、番組名からジャズ要素を求めたお客様は少し戸惑ってしまう恐れがある。テンポ感が統一されているため、使いやすい BGM として、幅広いシーンで利用出来るだろう。

【審議委員】

私の音楽の専門領域としては「Nu-Jazz （Instrumental）」の方が近いので詳しいのだが、先程出た「無機的」という意見は、選曲の多くがヨーロピアン・ジャズであることに起因しているだろう。
選曲内容より番組名の方が気になった。私はこの番組に“Nu-Jazz”という名前を付ける意図は非常によく理解できる。しかし、USEN を利用する幅広い層の人の視点では、番組名に“Jazz”と付いていると、サックスやピアノによる演奏を思い浮かべる人が大半ではないか。この番組は利用シーンとして想定しているアパレルにはばっちり合うのではないかと思うし、アパレルや理美容、カフェ等比較的おしゃれな方向性のユーザーに向けて作られていると思う。そういったユーザー層は実際に聴いて満足すると思うが、一方で、なんとなくジャズを期待して聴いた人にとってはギャップがあるかもしれない。“Nu-Jazz”の中でも一般的なジャズのイメージに近いのは、どちらかと言うとアメリカ産の方だろう。ヨーロッパの人達とアメリカの人達のジャズの捉え方は全く違うので、アメリカの人達が新しいジャズをやってみても、やっぱり多くの人がイメージするジャズになる。対してヨーロッパの人達は敢えて変えようと思っているので、両者のサウンドは結構違う。“Nu-Jazz”という言葉は厄介なことにどちらのジャズのことも指しているので、いっそのことヨーロッパとアメリカで分けて 2 番組作ったら良いのではないか。

【放送局】
アメリカの方がヨーロッパよりも少し明るい印象になるという事か？

【審議委員】
その捉え方で相違ないだろう。昔からヨーロッパの音楽とアメリカの音楽は違い、その流れが“Nu-Jazz”の中にもある。アメリカの方はサックスが多めだったり、コードもジャズのコードがそのまま進化していたりする。一方、ヨーロッパだとクラシックの要素が入ってきたり、アンビエントの要素も入ってきたりする。実際今そういった“Nu-Jazz”は非常に人気があるので、特定のファン層を狙った番組としては良い楽曲を揃えている番組だと思う。だからこそ、“Jazz”という言葉が厄介になってくる。

【放送局】
格好良さを求めるユーザーにとってはベタになってしまうし、ジャズを期待して聴いた人にとっては「ジャズではない」というギャップを生んでしまう言葉になる可能性があるということだろう。番組名を “New”ではなく“Nu”にした背景には、相応の新しさをアピールしたいという思いがあったが、再考したい。
また、選曲内容としては、緊張感を演出するというのも大きなコンセプトなので、狙っているところをご指摘頂いたのでありがたい。

【審議委員】
「Nu-Jazz （Instrumental）」は、アパレル、飲食、理美容などのスマートでスタイリッシュな空間演出を求める店舗を利用シーンとして想定しているとのことだ。審議する際はいつも、そのシーンの雰囲気や環境、ターゲットとなる客層を背景に、自身がその場に身を置いた時にどういう音楽が流れたら良いかと考える。例えば、アパレルショップについては、センスの良さが感じられるような楽曲や洗練された曲、明るい曲が流れていたら買い物が楽しくなる雰囲気が醸し出されるだろう。一方、飲食については一般的にはゆったり食事を楽しめる雰囲気が求められるが、和食・洋食・中華では全然雰囲気が異なる。その雰囲気の違いには配慮した方が良いのではないかと思う。理美容については、緊張感が緩和され、穏やかな気持ちになれる環境に合っているのかという点を考える。

ジャズの持つ様々な特性の中で、今回はミドルテンポの楽曲に統一しているとの事なので、実際にその通り選曲されているか、リズム感が利用シーンに合っているか、軽快さや快活さが感じられるか、そしてスタイリッシュな空間演出が叶う「クール感」があるか、といった点に着目して試聴した。
テンポはほとんどがミドルテンポであったが、一部スローテンポに感じられる楽曲が選曲されていた。スローテンポな楽曲はリズム感や変化に乏しいという印象に繋がり、他の楽曲に比べて明るさも欠けていた。アパレルで利用するには全体的には良いと感じたが、リズムや明るさに欠けるスローな楽曲については再考の余地があるのではないかと思う。飲食で利用するには、中には雰囲気に合致する楽曲もあったが、洋食向きのものと和食向きのものがあった。利用シーンごとに雰囲気や客層、世代は全く異なるため、アパレル、飲食、理美容それぞれに求められるニーズを常に意識して選曲するのが良いだろう。

【審議委員】
番組名についてはいつも審議会でも話題になるが、私自身は“Nu-Jazz”という言葉を知らなかったものの、この番組に合っているというか、良いなと感じていた。「C-33 Urban Jazz＆Soul」はどちらかと言うと、1 曲ずつ主張が感じられたが、「Nu-Jazz (Instrumental)」は一定の感情で聴けて、BGM として完成度が高く感じた。ただ、ずっと聴いているとテンポが揃っていない楽曲も少し流れるのかもしれないが、初聴時に集中せずサラッと流している分には、曲の切り替わりも分からないくらいに全部同じに聴こえて驚いた。
自身がデザインしたクラシカルな美容室でどちらの番組も流してもらったところ、「どうしたの？この選曲」とまるで私が選曲したかの様に褒められた。スタッフも若いので、そういう世代にはぴったりハマるのだろうと感じた。
では実際に何処でこの番組を流せば良いかという事だが、飲食や小売、ホテル等に加え、美術館というのも 2 番組で分かりやすく比べられるシーンだろう。例えば、今時の現代アートの美術館だと濃い「C-33 Urban Jazz＆Soul」の方が合い、広い空間にポンと作品が置いてある美術館だとサラッとした「Nu-Jazz (Instrumental)」の方が合うのではないだろうか。いずれにせよ、店長やオーナーのこだわりを主張するような店舗には合うだろう。その他には、格好良い今時のオフィスにもよく合うだろう。

【審議委員】
私も 2 番組共、聴きながら仕事がしやすいと感じた。
まとめると、2 番組共格好良くて新しいのは間違いない。いつもの審議であれば、それぞれの番組がどれ程多くのお客様に届くかという議論になるが、今日はどれ程格好良いか、新しいかという議論になっていた。新しいという事は馴染みが無いという事であり、懐かしさや共感、安心感といった多くの人の心を掴む要素とは対極に在る番組だというのが分かったと思う。だからこそ、この 2 番組は新しく、利用するお客様は少なくても良い。しかし、お客様から愛される熱量が低ければ、番組を作った意味が薄れてしまうのではないか。その点については検討して欲しい。

【放送局】
今回も各番組について、番組名や選曲の良し悪し、利用シーンについて貴重なご意見を頂いた。今後の番組作りの参考にさせて頂きたい。
USEN の音楽配信事業においては、ランキングやヒット曲、定番のジャズやクラシックのような、誰が聴いても共通の雰囲気を演出できる番組が、多数派のお客様に支持され市民権を得てきた。その中で、2000 年代頃からトレンド領域の番組作りにもチャレンジし、トレンド感の演出を求める店舗にも認めて頂けるサービスを目指して試行錯誤を重ねてきたことが、

今回の 2 番組に繋がっていると考えている。こうした取り組みの積み重ねが、他サービスと競合する時にノウハウとして役に立つと感じている。現在は成長の過渡期なので、頂いたご意見をサービス全体に向けた提言として捉え、「こういうシーンにはこういう番組がニーズに合致する」と自信を持って提案できる番組を作っていきたい。今後は個々の番組だけでなく、ジャンル単位での審議も有意義かもしれないので、その際は改めてご意見を頂戴したい。

【審議委員】
番組編成の戦略として、新しい言葉やジャンルがまだ定着していない段階では、選択肢を広げ過ぎない方が良い。情報を分散させず、敢えて番組数を絞り込んで分かりやすさを優先することで、お客様に届きやすいのではないか。番組の選択肢を増やすべき時期と絞るべき時期の見極めについても是非検証してみて欲しい。

【放送局】
この 2 番組だけではなく、スタイリッシュな空間に対して、スタイリッシュな音楽をどう訴求していくのかというのは課題だ。

【審議委員】
最先端の尖った番組に、尖った名前を付けて、「今一番最先端の曲はこれだ！」と分かりやすくするのが良いのではないか。

【放送局】
これまで USEN の音楽配信サービスも若年層に向けて変化させてきており、その中で「スタイリッシュ」を目指した時代もあった。その延長線上に今があるが、今日の審議では大変貴重なご意見を頂いた。これは永遠のテーマかもしれない。我々が「格好良い」、「スタイリッシュだ」と思った瞬間に進化が止まってしまうので、歩みを止めず、皆さんのご助言を頂きながら進めていきたい。

【審議委員】
感度が高い人達は昔の USEN のイメージのままで、「USEN にはスタイリッシュな番組が無い」と思っているのではないだろうか。敢えて意表を突くようなスタイリッシュな番組を作り、「え、これが USEN なの？」と思わせるのは非常に面白い試みではないか。

【放送局】
それをいかに発信していくかという点も、現在の課題でもある。本日も貴重なご意見を頂いた。是非今後の番組作りの参考にさせて頂きたい。